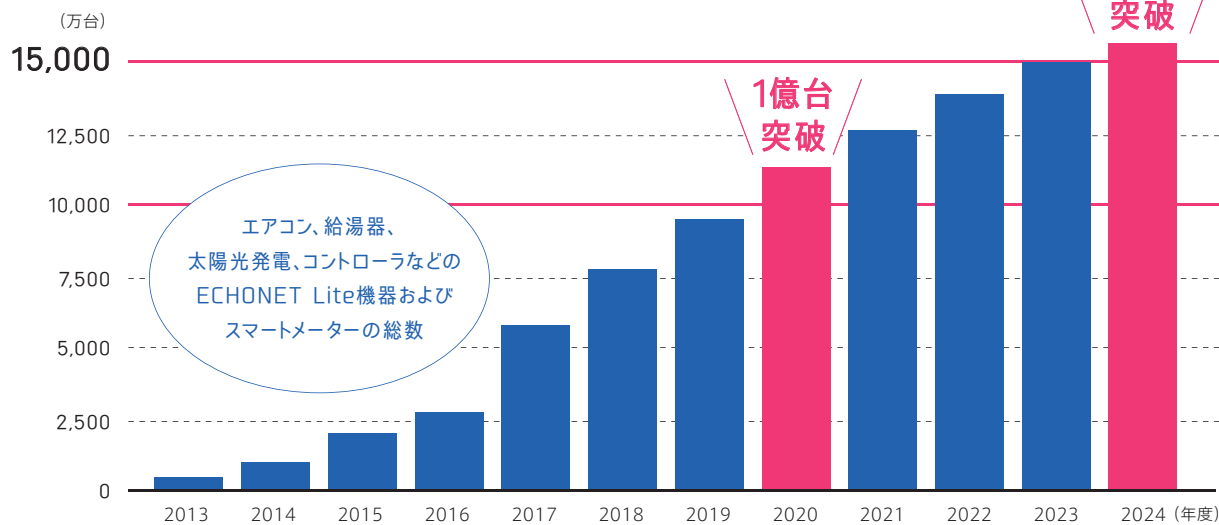


## すでに、エコーネットライトは世界最大規模のIoT環境を実現

ECHONET Lite機器の出荷・設置台数累計



### エコーネットライト2030年までの新ロードマップ

機器の普及とサービス連携の拡大を進め、ECHONET 2.0によるSDGs実現に貢献してまいります。

**2020年**  
ECHONET Lite実装機器 1億台

**2018年**  
2030年度を見据えた戦略を策定

**2025年**  
エネルギーマネジメントを全世帯導入  
ECHONET 2.0によるサービスで全世帯をカバー  
機器オブジェクトの定義：200機種  
ECHONET Lite Web APIによるサービス事例：50事例

**2030年**

エネルギーマネジメントを全世帯導入

ECHONET 2.0によるサービスで全世帯をカバー

機器オブジェクトの定義：200機種

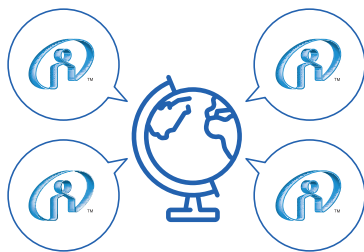
ECHONET Lite Web APIによるサービス事例：50事例



さらに、海外への普及も。

エコーネットライトは、標準化と教育・研究を両輪とした国際連携も実施。

ECHONET Lite規格の主要部分である「ECHONET Lite通信ミドルウェア」と「機器オブジェクト詳細規定」は、2015年にISO/IEC14543-4-3およびIEC62394として国際標準規格に認定されました。同時にマレーシアやタイなどのASEAN諸国を中心に、ECHONET Liteの研究開発・地域拠点が稼働しました。



### エコーネットコンソーシアム

エコーネットコンソーシアムは、スマートホームの必須要素である家電や住宅設備機器が相互に連携するための通信規格「ECHONET Lite」を推進する団体です。エコーネットコンソーシアムでは、ECHONET Liteの標準化を進めると共に、ECHONET Lite規格に対応した機器の製品化支援や関連業界との協力により、スマートホームの普及を促進しています。

また、ECHONET Lite規格に加えて、機器の振る舞いを規定するECHONET Lite AIF仕様の策定と、新しい付加価値創出による豊かで持続可能な社会Society5.0の実現に貢献するためのECHONET 2.0も推進しています。

エコーネットコンソーシアムは、シャープ株式会社、東京電力ホールディングス株式会社、株式会社東芝、パナソニックホールディングス株式会社、三菱電機株式会社の幹事会員をはじめ、家電・電気・電子業界、エネルギー業界、住宅業界、IT業界、大学等の研究機関から、約260の会員・準会員・学会員に参加いただいています。

お問い合わせ

一般社団法人エコーネットコンソーシアム <https://echonet.jp/>

〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-5 新橋TSビル4F TEL 03-6205-4142 FAX 03-6205-4143



Energy Conservation and Homecare Network

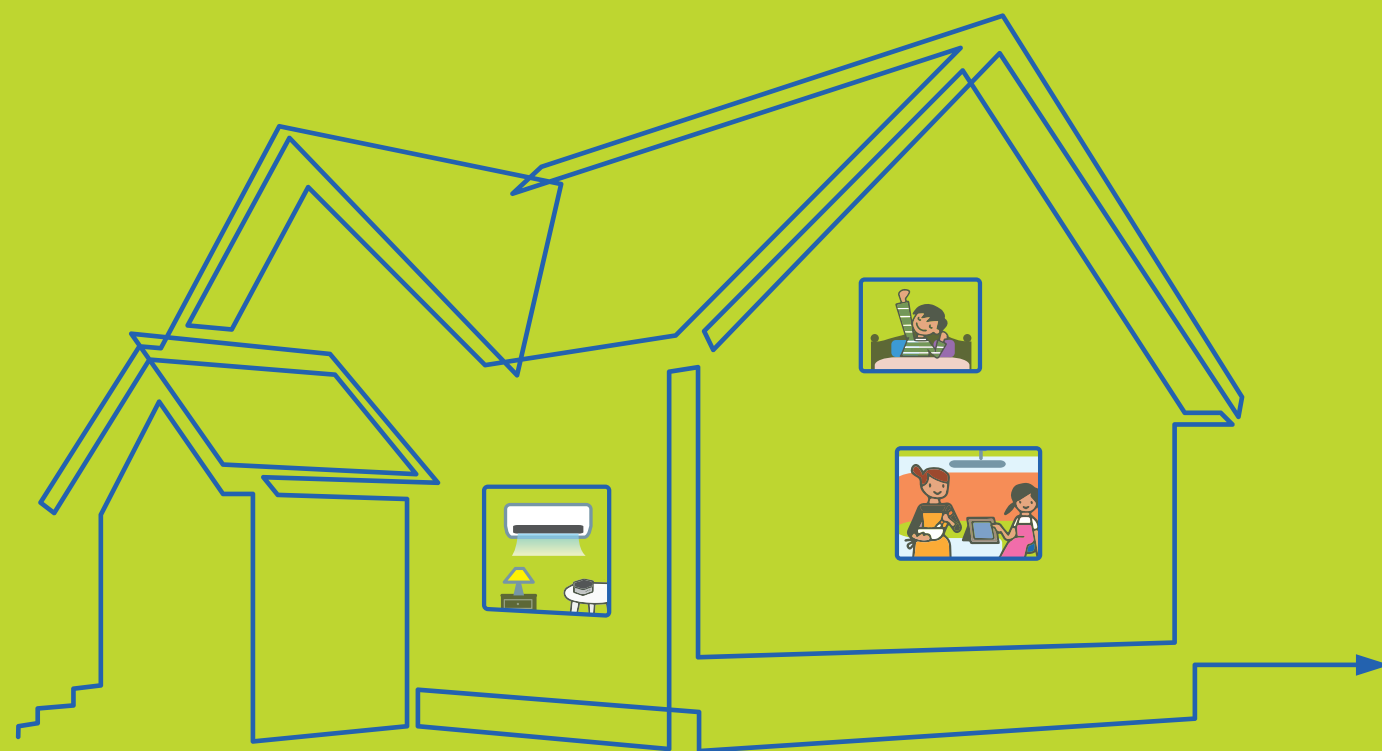
IoT時代のホームネットワーク規格



# ECHONET Lite

××××× エコーネットライト ×××××

## これからの住まいは



# こう変わる。



一般社団法人エコーネットコンソーシアム

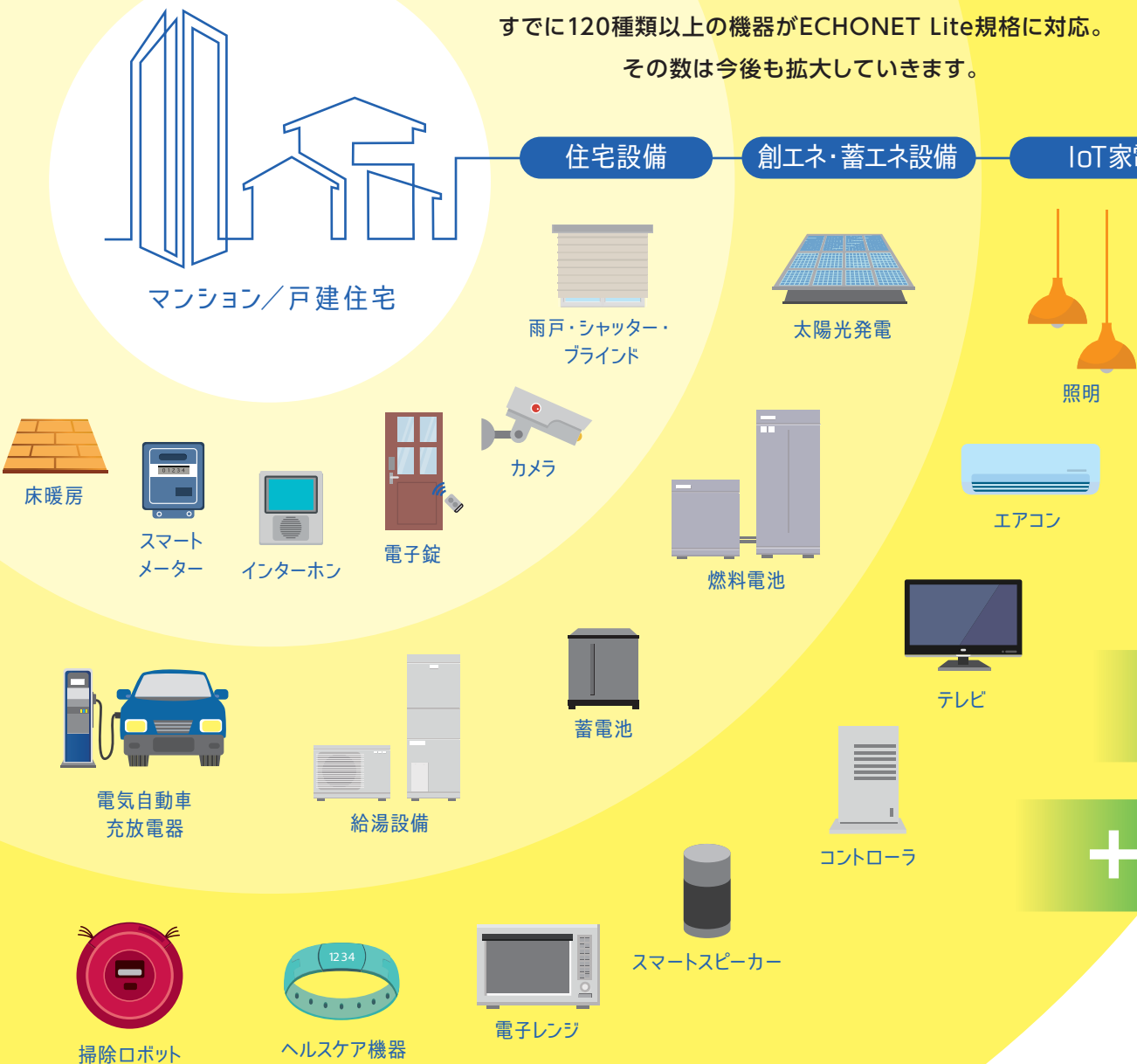
ECHONET Liteは、ISO/IEC14543-4-3およびIEC62394として国際標準規格に認定されています。

# エネルギーマネジメントから暮らし全般へ広がるIoT。 エコーネットライトで、住まいは次世代のIoT住宅に変わる！



## つながる、増えるIoT家電・住宅設備機器

すでに120種類以上の機器がECHONET Lite規格に対応。  
その数は今後も拡大していきます。



## つながる、広がるIoTライフサービス

IoT家電・機器を活用した暮らしの広がりとともに、  
新たな事業者の参入で、より便利で快適なライフサービスが誕生。



異なる企業が提供するIoT家電、住宅設備、創エネ・蓄エネ設備の通信を可能にするための**“共通のことば”**です。

例えばHEMSを活用したIoT住宅のように、インターネットを通じて様々なメーカーのIoT家電、住宅設備、創エネ・蓄エネ設備を制御するためには、**同じインタフェース(共通のことば)**が搭載されている必要があります。その役割を果たす通信規格がECHONET Liteです。

ECHONET Liteは、公知の標準インタフェース(共通のことば)として推奨されている規格です。

★経済産業省のスマートハウス標準化検討会で、HEMSにおける公知な標準インタフェースとして推奨されています。

★ISO/IEC14543-4-3およびIEC62394として国際標準規格に認定されています。

【IoT住宅のイメージ図】

